sousei akita

曹青秋田

秋田名「佛」　～第11教区・長年寺（松井事務局長 師寮寺）の佛様～

秋田県曹洞宗青年会 創立四十周年記念大会

記念大会を終えて

総務部長　鮎川　義寛

この度、秋曹青創立四十周年記念大会に、総務部長として携わらせていただきました。菅原会長はじめ、会員の皆様に多々ご迷惑・ご心配をおかけしましたこと、深くお詫び申し上げます。

「祈りをつなぎ　さらなる明日へ」のスローガンを掲げ、講師に島薗進先生をお迎えしてご講演いただいたこの大会でしたが、スローガンを表現するためのムービーや体現する法要など多岐に渡り、各部長老師をはじめ、尽力くださった会員の皆様のおかげで、無事円成できた記念大会であったと改めて感じております。感謝申し上げます。

記念大会終了後、参加された老師から、盛会について「秋曹青は人材豊富」というお言葉をいただきました。私自身、何もわからないまま、皆様に助けていただいてばかりでしたが、四十年という年輪を刻んだ大樹の人材豊富な環境で大きな節目に携われたことは、とてもありがたく思います。ありがとうございました!!

繋ぎ

法要部長　清水　道広

秋曹青が発足してより四十年。歴代の会長様他、お歴々の参席のもと行われました四十周年記念式典。

何かを始め、後世に繋いでいく。日本人は駅伝が大好きです。箱根駅伝はお正月の名物番組であり、誰もが目頭を熱くする事を禁じ得ません。手から手へと繋いでいく事の大変さを内在的に知っているからなのでしょうか。四十年の襷リレー。私達もまた次の世代に繋いでいくわけですが、私達はその襷をより太く紡ぎ、繋いでいかなくてはいけないでしょう。

四十周年記念事業に際し、浅学非才の身でありながら法要部長の任を預かり、私達青年僧侶が取り組める精一杯の勤行である、法要・声明・法話・梅花・坐禅、これらを記念式典法要において勤めさせて頂きました。

進退には特に注意をはらい、仏名での礼拝、詠讃歌、法要解説の中に盛り込む法話。そして静坐にて締めくくる。鳴らし物等も少なく、やや特殊な法要となりましたが、百戦錬磨の諸兄のご協力のお陰で、無事勤める事が出来ました。

四十年が過ぎ、次の十年を迎え五十周年式典を迎える事となるでしょう。私達は次の十年に繋げる事が出来たのでしょうか。自問自答を繰り返し、また私自身成長していきたいと思います。

最後に、今大会に於いて特にご尽力されました会長、副会長並びに各部長諸兄・ご協力下さいました諸宗師・ご参席下さいました諸老師方に心より御礼申し上げ、擱筆致します。皆様本当にお疲れ様でした。有り難うございました。

記念大会に参加して

式典部長　村松　玉宗

今回、私は式典部長として参加しました。主な役割は懇親会の準備等で、事務局さんにも多大なご協力を頂きましたが、難航したのは余興の段取りでした。様々な方にアドバイスを頂き、会員による『お坊さんバンド』へと辿り着きました。

県内に楽器を嗜む僧侶が多く居られたことは非常に心強く、特に肝心のボーカルについては会長さん・副会長さんに快くお引き受け頂きました。「なるべく手作りでの記念大会にしたい」という会長さんの想いに沿った出し物となり、更にはご参会の沢山の方々にも楽しんで頂けたようで安堵しております。

この度の記念大会に関わることができ、歴代の会長様方・会員の皆様が、どのような想いで活動して来られたのかを振り返る、貴重な時間となりました。自分達の研鑽だけにとどまらず、宗門内外の活動にも目を向け、世間とのつながりを大切にされた先輩方の背中に、少しでも近づけるよう、我々も精進していきたいと思います。

式典第二部　記念講演

「正法を問う ―生きる縁となる仏行の可能性―」

【講師】
上智大大学院実践宗教学研究科教授・同グリーフケア研究所長
島薗　進氏

冒頭〝高校生の頃に初めて秋田に来た。その頃片思いしていた相手が、学校行事である坐禅に熱心に参加していた。つられて自分も坐禅に親しむようになった。その相手が今の妻である〟――という逸話から、講演は始まった。その後、大学院に進んで研究者を志す。駆け出しの頃、奈良康明・佐々木宏幹といった曹洞宗の碩学から大きな影響を受けたという。やがて曹洞宗における子供会・坐禅会など教化活動の事例を調査するようになり、特に梅花講に興味を持たれた。そして《曹洞宗における「**正法**」とは？》ひいては《日本仏教史において「正法」理念はいかに問われ、新たな運動や思想を生み出したのか？》というテーマのもと、研究を続けてこられた。

現代の主要な宗派はほとんどが鎌倉時代に開かれた。その〝民衆に広まった〟点を重視するあまり、それ以前に連綿と受け継がれてきた「出家」「戒律」「僧伽」に関しては、考察が抜け落ちる傾向があるという。

しかし、それらは「正法」を体現する不可欠な要素であり、奈良～平安時代にはその理念に基づく国家の実現が目指された。「正法」が遍く行きわたる為には、苦しむ人々を一人でも多く救わねばならない。貧民救済と出家主義・戒律主義は一見縁遠く思えるが、実は密接に関わっている――というご指摘は興味深かった。特に、高祖大師と同時代を生きた真言律宗の**叡尊**（一二〇一～一二九〇）と高弟の**忍性**（一二一七～一三〇三）は、出家主義・戒律・僧伽の復興と平行して、貧民救済や社会福祉に尽力した。近年まで学界は彼らを〝旧仏教〟に分類し、〝鎌倉新仏教〟と対比させてきたが、もはや的外れな概念だと気付かされた。

明治時代、廃仏毀釈という苦難を経て、「正法」は再び強く認識されるようになり、仏教界の動きも活発になった。そして近年、東日本大震災をはじめとする災害へのボランティア活動や自死者を減らす取り組みなど、仏教者は積極的に社会問題に関わるようになっている。この流れは決して新奇なものではない。奈良時代の高僧・**行基**（六六八～七四九）から続く、「正法」世界を実現させようとする系譜に連なるものだ――という提言には、目から鱗が落ちる思いであった。

配布されたレジュメは全二十四頁。釈尊の出家から説き起こし、《日本仏教史＝「正法」を求める歴史》として御教示下さった島薗氏のご講演は実にハイレベルだった。この記事で触れ得た内容はごく一部に過ぎない事をお断りしておく。深く知りたい方は、氏の著書『**日本仏教の社会倫理―「正法」理念から考える**』（岩波現代全書、平成二十五年刊）をお読み頂きたい。

（佐々木　耕志）

秋田犬こもれび教室2018

『こども自然ふれあい広場』

（東日本大震災復興支援 子ども保養プログラム）

秋田犬こもれび教室2018を終えて

「感謝感謝感謝」

『こども自然ふれあい広場』を終えたとき、私は本当に感謝の気持ちで胸がいっぱいでした。参加してくれた子ども達・随行スタッフの皆さん・会員をはじめとする現地スタッフの皆さん・施設職員さん・関係各位の皆さん・そして天気までも、関わった全ての力が成功に導いてくれた気がします。思い返すだけで今でも泣けてきます。

開催前は毎日天気予報とにらめっこ、台風の影響から週間予報が毎日のように変わる日が続きました。特に川遊び・川渡りの予定は、当日に晴れても増水の場合は予定変更も考えられたプログラムでした。しかも七月下旬は全国的に大変な暑さで、秋田も三十七度を越える日もあり、イベントを企画する大変さを痛感しました。しかし、当日は川遊びの時には適度に暑く、夜には涼しく、キャンプファイヤー星空ライブの時には満天の星。まさに最高の気象条件のなか、予定通りに全日程晴天時のプログラムで進めることができました。

秋田犬とのふれあい・川遊び・滝めぐり・川渡り・ピザ作り体験・味噌付けたんぽ作り体験・バーベキュー・花火・キャンプファイヤー星空ライブ・坑道ツアー。並べると盛りだくさんな感じですが、プログラムは時間に追われないように、ゆったりとした時間配分を心掛けました。

初日のアイスブレイクに十分な時間を取り、とてもうまく進めてもらえたことで、スタッフを含めた参加者同士の緊張がほぐれ、そのことが後のプログラムをより楽しんでもらえることに繋がったように感じます。

心配した川の水温は予想通り低かったものの、子ども達は関係なく存分に遊んでくれました。やっぱり子ども達ってすごい。キャンプファイヤー星空ライブでは、あの場にいたすべての人を魅了する、言葉に尽くせない渡邊英心（わたなべえいしん）さんの最高のパフォーマンス。秋曹青スタッフが踊りだしたのをきっかけに子ども達・参加スタッフも自然に輪に加わり、みんなで一つの輪となり踊ったのには感動しました。また、ずっと裏方で奔走（ほんそう）していた典座（てんぞ）の矢萩宗淳（やはぎそうじゅん）さん。思いの詰まった数々のおいしい食事・後片づけ・給水関係等あらゆる裏方を完璧に黙々とやり切ってくれました。

当事業の企画準備には、ボランティア委員会が中心となって、実行委員会を組織して進めてきました。他にも、全体を通して、又はそれぞれのプログラムで活躍した人がいて、すべてを書き出したい気持ちでいっぱいです。

なによりも、参加いただいた子ども達とスタッフに事故やケガもなく、安全に運営できたことが成功だったと思います。協力いただいた関係各位に改めて感謝申し上げて、結びとさせていただきます。ありがとうございました。

（ボランティア委員長　佐藤　宗明）

第十回『祈りのつどい』

生者と死者の平等
「祈りのつどい」に参加して

第三教区　永泉寺副住職
猪股　尚典

平成三十年九月十六日、円通寺様（由利本荘市西目町）を会場に、第十回『祈りのつどい』が開催されました。連休の日曜という忙しい中、会場を提供していただいた円通寺様の多大なるご協力の元、袴田俊英老師・涌井真弓先生のご指導により、無事にお勤めすることができました。

参加者は九名、それぞれ大切な方の思いと共に法要に臨んでいらっしゃいました。

法要の前に涌井先生からグリーフケアの講義をいただきましたが、そこで大変ショッキングな話を伺いました。自死された方の遺族が、ある僧侶から「自死者は成仏しない」という話をされ、そのことでさらに深く傷つき、相談に来られたそうです。愕然としました。「成仏していない」という事は、一般的には「仏の世界にたどり着けず、未だ迷い苦しんでいる」と理解されます。この世で苦しんで亡くなったのに、亡くなってからも苦しんでいるというならば、これは遺族にとって二重三重の苦しみです。このような配慮の無い、社会的常識に欠ける僧侶がいる事に、大変心が痛みました。

同月の現職研修会にて、自死対策に取組んでおられる増田友厚老師、「仏典から見る自死観」について講義された佐々木閑先生のお話がありましたが、これは偶然では無く、『祈りのつどい』に参加する僧侶に対する、仏様の導きがあったのだと思います。皆様に共通する認識は、「自死は悲しい別れ方ではあるが、決して悪ではない」という事です。しかし社会の偏見によって悪と決め付けられ、遺族は苦しんでしまうのです。

隣の席に自死者の幽霊が座っているとしたら、その幽霊はどのような顔をしていると想像しますか？

その答えに僧侶の力が試されるのだそうです。幽霊ですから一般的には暗く、落ち込んで、うらめしそうにしている顔を想像しがちです。しかし、悲しくも死によってこの世の苦しみから解放されているのだったら、笑顔でいるのかもしれないという話を聞いた時に、正直、自分の中にも死者に対する偏見があることに気が付きました。

釈尊の平等の教えは「生きている者のみならず、死者に対しても同じでなければならない」――これこそ真の仏教であり、我々が一番気を付けなければならない所であることを教わりました。そのことを忘れず、苦しみ悩む人々と共に、亡くなった人にも寄り添っていくことを、祈りのつどいにより身をもって学ばせていただきました。

住職学研修

『出家を問う』
～われわれ仏道修行者の目指している世界～

一月十八日、宗務所禅センターに於いて、花園大学文学部仏教学科教授、**佐々木閑**（ささきしずか）先生を講師としてお迎えし、平成三十年度住職学研修が開催された。

今期のテーマ『出家を問う』の集大成として、また『インド仏跡研修旅行』の事前研修として、特にお釈迦様の仏伝について、三コマにわたり詳細に御講義頂いた。

個人的な考えだが、自分が僧侶として学ぶと言うことは、足下を固め続けることだと思っている。「出家を問う」という今回の住職学研修の題を借りれば、足下を問い続けるということになるだろう。その中において、日本では各宗祖が重要視されがちな中、仏教本来の立ち位置・基盤である「仏陀世尊」に関して、佐々木閑先生の知識と力強い言葉を聞くことができ、自分の「足下」についての考え方が、きっと間違っていないのだろうと感じられた。それが何よりも貴重であったように思われる。

この機会を下さった秋曹青と、秋田までお越し頂いた先生に改めて感謝申し上げたい。

（第三教区　龍源寺住職　土屋　泰順）

東日本大震災慰霊行事
復興祈願法要に参加して

戸澤　広悦

去る三月十一日、岩手県山田町龍泉寺様で行われた法要に、秋田県曹洞宗青年会として、菅原会長、赤石副会長を始め、八人の会員諸師と共に随喜させて頂きました。

当日は、岩手県沿岸部に暴風警報が出る荒れた天候となり、十四時から龍泉寺様の境内地にある全曹青「活動の灯」前で行われる予定だった法要が、急遽法堂（はっとう）内で行われることとなりました。

その後引き続き法堂で、施食会一座を厳修（ごんしゅ）し、震災発生時刻のサイレンと共に黙祷を捧げました。

法要の後、場所を龍泉寺様客殿に移し、全曹青の皆様と共に「茶話会」にも参加させていただきました。

今年も震災でご家族を亡くされた方とお話をさせて頂きましたが、「物の復興は目に見える。しかし、人の心の回復具合は目に見えないものだ」との思いを強く持ちました。

東日本大震災の「風化」が既に聞こえてくるようになった昨今、現地に行くことの大切さを再自覚する八年目の随喜となりました。

随聞会 インド研修
～仏教遺跡 釈尊六大聖地巡拝～

第五教区 龍泉寺副住職 村田 泰仁

この度の七泊八日のインド研修に於いて、お釈迦様に縁ある聖地を参拝させて頂きました。

初めに、お釈迦様が説法された祇園精舎に向かいました。お釈迦様が雨季時に安居された場所でもあり、遺跡には多くの別院跡も点在していました。同日、スダッタ長者の屋敷跡、アングリマーラの塚、昇天の塚へと行きました。

二日目以降、お釈迦様が涅槃に入られたとされる涅槃堂、荼毘に付された荼毘塚、八分骨地、最後の説法地、世界最大と考えられているケサリア仏塔、アショカ王柱が立ったまま残るストゥーパ遺跡、仏舎利発見跡、霊鷲山参拝、ナーランダー仏教大学跡、ビンビサーラ王の牢獄跡からの霊鷲山遙拝、竹林精舎、苦行林、スジャータ寺、スジャータ屋敷跡と言われるストゥーパ、ブダガヤ大聖堂、日本寺、鹿野園、迎仏の塔、ガンジス川等を参拝し各所にてお勤めをさせて頂きました。

七泊八日の短い日程ではありましたが、多くのお釈迦様の足跡を辿りながらインドにて見て感じたのは、一僧侶として自己観照するのにはとても素晴らしい機会だったという事です。またインド研修にて得たことを、無駄にすることなく日々の布教・教化に役立てて行きたいと思います。

■ インド行程図

日程

1 二月二十日(水)
成田空港発 十一時十五分
デリー着 十八時半
午前九時三十分、成田空港に集合
空路デリーへ
着後、夕食を取り、空港近くのホテルへ(デリー：ホテル・シティーパーク・エアポート泊)

2 二月二十一日(木)
デリー発 七時十分
ラクノー着 八時五分
サラバスティ着 十三時十五分
朝、空路ラクノーへ
着後、祇園精舎のあるサラバスティへ
着後、サヘト(祇園精舎)・マヘト(舎衛城)を参拝(サラバスティ：レジデンシー泊)

3 二月二十二日(金)
サラバスティ発 七時
クシナガラ着 十二時十五分
釈尊涅槃の地クシナガラへ
着後、クシナガラ参拝(涅槃堂、荼毘塚、最後の説法地)(クシナガラ：ロイヤルレジデンシーホテル泊)

4 二月二十三日(土)
クシナガラ発 七時五分
(ケサリア)(バイシャリ)
ラジギール着 十九時二十分
朝、霊鷲山のあるラジギールへ
途中、世界最大級のストゥーパが残るケサリアや、釈尊最後の旅の出発点バイシャリを参拝
着後、ホテルへ(ガルギー・ゴウタム・ビハール・リゾート泊)

5 二月二十四日(日)
ラジギール発 十三時半
ブダガヤ着 十五時三十分
午前中、ラジギール参拝(霊鷲山、竹林精舎、ビンビサーラ王の牢獄跡)また、ナーランダ大学跡も参観
昼食後、釈尊成道の地ブダガヤへ(大塔、金剛宝座、尼蓮禅河、スジャータ村)
着後、ホテルへ(ブダガヤ：スジャータホテル泊)

6 二月二十五日(月)
ブダガヤ発 八時二十分
ベナレス着 十九時五十五分
午後、サールナイト参拝(迎仏の塔、博物館、ダメーク塔、ムーラガンダクティ寺院)
着後、ホテルへ(ベナレス：クラークスホテル泊)

7 二月二十六日(火)
ベナレス発 十五時三十分
デリー着 十七時二十分
デリー発 二十一時十八分
早朝、ガンジス川にてボートに乗って沐浴風景や火葬の様子を見学。
朝食後自由行動
ホテルにて昼食後、空路デリーへ
着後、空港内で乗り継ぎ
深夜、帰国の途へ(機中泊)

8 二月二十七日(水)
成田空港着 八時十五分
着後、解散

曹青秋田／第86号
発行／秋田県曹洞宗青年会
事務局／鹿角市花輪字上花輪13　長年寺内　　発行責任者／菅原芳徳　　編集責任者／戸澤広悦
秋曹青ホームページ　http://www.sousei-akita.net/